

第4回 県立病院跡地利活用懇談会
議事要旨

日時	平成 29 年 10 月 26 日 (木) 18:00~20:10
場所	ルネッサンス中の島 4 階 ウエスト
出席者	委員 5 名 (竹内委員欠席) オブザーバー 2 名 (全員出席) 会津若松市 企画政策部 企画調整課 4 名 株式会社日本経済研究所 社会インフラ本部 2 名
配布資料	・次第 ・出席者名簿 ・資料 1 県立病院跡地利活用ワークショップの振り返り ・資料 2 県立病院跡地利活用の方向性に関する意見書 (たたき台)

I. 出席者

1. 委員

No.	氏名	所属団体等	備考
1	いちおか あやこ 市岡 綾子	学校法人日本大学工学部建築学科 専任講師	建築・まちづくり
2	さげ よしかず 佐瀬 良一	会津若松市スポーツ推進委員会 理事長	スポーツ・健康
3	てらうち しゅうや 寺内 秀也	会津若松商工会議所 専務理事	商業・金融
4	まつうら くみ 松浦 久美	Like 会津実行委員会	まちづくり・協働
5	やまぐち ともえ 山口 巴	特定非営利活動法人 Lotus 理事長	福祉・子育て

2. オブザーバー

No.	氏名	所属団体等	備考
1	こばやし しんじ 小林 真司	会津若松市国際交流協会 事務局長	国際交流・インバウンド
2	こあらい としゆき 小荒井 俊行	株式会社エフエム会津 取締役	コミュニケーション・情報

II. 懇談会

1. 開 会

2. 座長あいさつ

(座長)

本日は第4回ということで、全5回ということ踏まえると折り返し地点を過ぎたところである。そろそろゴール地点を見据えて進めたい。

第3回は委員の皆様が考えや意見を提案として発表していただいた。

本日は、意見書のたたき台について、遠慮なく意見を挙げてもらい、付け加えていきたいと思う。

尚、本日欠席の竹内委員については、後日事務局から説明すること。その際に意見をいただいた場合には、会議での発言と同等に扱うことを提案したい。

(全員同意)

3. 議 事

(1) 県立病院跡地利活用ワークショップの振り返りについて

(事務局)

資料に基づき説明

(座長)

この資料自体を完成させるものではないが、ご自分の意見が入っていないなど、遠慮なくご意見を出していただければと思う。

(委員)

武道に関する記載について。資料1のP.1の「知ってもらう」という機能の中で、「武道を見せる」「練習風景を見せる」と記載しているが、競技の場としてという意味が、まずあるものと捉えている。練習を見せる、体験してもらうこともあるのだろうが、まず武道を行う場所として、「武道場」という意見があった。

(事務局)

資料1のP.3では、「楽しむ」と「知ってもらう」の2つの機能を実現する施設としてそれぞれに「武道場」が記載されているが、P.1では「知ってもらう」には「武道」が記載されているものの「楽しむ」には「武道」が記載されていない。スペースとまとめ方との兼ね合いもありすべてを記載できていないが、「武道」が見せて知ってもらう目的だけでなく、自らが行うという競技であることも含めた意味という意図については承知した。

(委員)

最終版への記載を機能面でまとめるのであれば、「武道場」や「練習場」という具体的な表現になってしまうと、色々と制約を受けることになりかねないので、表現としては「武道を見せる」「武道を行う」等でよい。

(委員)

コンベンション機能について、「展示機能」に入っているという点は問題ないが、集会、会議、イベント等、あらゆることで活用することにより採算性が高くなり得るので、コンベンションという表現の含む意味が幅広いということをお知らせするように書いてほしい。

また、第 3 回で宿泊機能の付加についても提案した。コンベンション施設と宿泊機能とは別々に存在するのではなく、一体となっている方が望ましい。観光都市として都市型ホテルがあるべきと考える。

本市の課題として、大規模なイベント等のケータリングに弱みがある。観光都市にふさわしい都市型の宿泊施設があり、そこからケータリングができるようになることも理想である。

記載については、「宿泊機能付コンベンション施設」という表現ではどうか。

(事務局)

コンベンション施設と宿泊施設は一緒に記載するのか。

(委員)

コンベンション施設が先行・独立して存在するのではなく、せつかくならば都市型の宿泊施設を備えているとベストというご意見だったので、そのような表現とした方がよいだろう。

周辺の温泉地に宿泊してもらい、そこのピストン輸送をする等の方法も考えられるが、まずはこのご意見を反映していただければと思う。

(委員)

「インフラ整備」に含まれるものとして、交通の拠点としての「バスの発着所」という提案もあったと思う。それも付け加えてはどうか。

(委員)

公共施設の機能も少し入れては、という意見があった。

(事務局)

P.2の「留意点」の枠に「公共施設（ハローワーク、赤十字センター等）」を入れている。

(委員)

承知した。

(委員)

雪室という意見についても反映されたい。雪室とは、雪を貯蔵しておき夏の間冷房などに使うものである。機能としては、「自然との共生」や「インフラ」に入るか。面白く展開できるかもしれない。喜多方市山都町では蕎麦の実の冷温貯蔵などに使われている。

(委員)

雪室の機能を活用することで、雪を見たことがない、雪を見に来た、という海外を含めた観光客には非常に喜ばれるかもしれない。

(委員)

「緑の回廊」という意見が出されていた。これは対象敷地だけに限定したものではなく、鶴ヶ城など近隣の施設と「つながっていく」という意識を形にしたものであり、大変重要である。この表現を記すべきと。

(委員)

「機能」とは違うかもしれないが、会津大学との連携についても、皆様に関心を示された内容である。実現の可

否はともかく、可能性を探る、という意味合いでも記載していただけるとありがたい。ここに書いてある内容の中では、おそらく「ICT 体験」等のキーワードに通じるものと思われる。

(2) 県立病院跡地利活用の方向性に関する意見書（たたき台）について

（事務局）

資料 2 に基づき説明

※構成内容を区切って検討

① 目次、P.1 について

（委員）

「意見書提出にあたって」という文章は必要であり、この構成はよいと思う。資料も当然必要だろう。意見がなければ目次についてはこのままで進めたい。

（委員）

資料 2 の P.1、5～6 行目の施設名の羅列の中に、「鶴ヶ城体育館」などの運動施設名だけでなく、収容性のある文化施設等として「會津風雅堂」、「県立博物館」を記載してほしい。連携が必要になってくる施設でもあり、「など」でまとめるのではなく、名称を出していただきたい。

（事務局）

代表的な施設については、今一度整理する。

② P.2 「まちづくりを進める上での位置づけ」、P.3～4「備えるべき機能」について

（オブザーバー）

「周囲の景観」や「自然との共生」という言葉があったと思うが、それはここに入るべきなのか、或いは別のところで触れるべきなのか。

（事務局）

P.2【位置づけ 5】の項目に該当すると考えている。取扱いの重みについては、委員のご意見を伺いたい。

（委員）

位置づけ 5 の「会津らしい」という表現の捉え方に委ねられるところがある。もう少し具体的な文言を加筆してもよいだろう。対案を、次回検討してはどうか。ただし、「景観」等一言で終わらせてしまうことは好ましくない。

（事務局）

景観については都市計画の中で、「景観条例」と「景観計画」を定め、重点区域として鶴ヶ城エリアを定め、県立病院跡地はこれに含まれているのでその計画に基づいて整備する方針である。

（委員）

具体的には景観計画等に基づくことになるが、表現を少し補えばより適切になると考える。「周辺のまちなみなどと調和するように」、という感じで入れればよいのではないか。

（事務局）

景観の基準・記述と大きく乖離することがないよう、表現については景観計画と整合性を取ることにしたい。

(委員)

意見書の構成なども考慮する必要があるため、文章量次第では、「5 付帯意見」に入れることも考えられる。ただ、「会津らしさ」という一言で表現するのではなく、周辺との景観の調和などの表現を加えてもらえた方が、委員の意図が正しく伝わると感じる。

(委員)

県立病院跡地の役割として、「郷土愛を育む」ことや、「文化」等廃れてはいけないうものがあって、それらについて「継承」という言葉を使って記述してほしい。

(委員)

[位置づけ 5]の「伝える」というところに集約されていると思われるが、少しあっさりしている印象がある。

また、人口を維持するという観点で「郷土愛」については各委員が大事に発言されていた。そこを付け加えていただけると良い。「郷土愛を育む場とする」等。[位置づけ 5]こそ、会津らしさについて最も重要な意図が反映される部分である。この項目において、委員の意見を汲んでいただきたい。

(委員)

[機能 2] スポーツ・運動・武道について、自身も弓道をずっとやってきたが、会津はトップレベルのスポーツ選手を輩出するほどに熱心な素晴らしい土地だという、熱意が伝わるような表現を検討いただきたい。全国大会レベルのものが会津で行われているのだ、というような。

(事務局)

育成して全国に羽ばたかせている、というイメージでよろしいか。

(委員)

その通りである。ただ楽しくやっているのではなく、そこに「本気」があるということを伝えたい。

(事務局)

「修練」「厳しさ」等の表現を加えると、会津らしくなるだろうか。(委員)

会津というまちが、スポーツに対する「本気」の受け皿である。「受け皿」とは、施設に限らず、指導者等の人材や、クラブ等の組織のことも指している。

(委員)

もしスポーツ施設を作るなら、「本気」の施設を作ってほしいということになる。中途半端なものを作るよりも、何かに特化してもよいから、世界で戦える選手を育てられるようなものを整備することが望まれる。

(委員)

「武道」と記載しているところに、伝統のスポーツを大事にしていきたいという思いが込められるので、「さまざまなスポーツ」という表現だけでさらりといかない方が良くもしい。

(委員)

機能の中に、「宿泊施設」が入っていないので、入れておいた方が良いのではないかと。おそらく [機能 5] の中の「サービス等」に含まれるだろうが、以下の文章で「映画や飲食、物販、宿泊等」としてもらえれば。尚、この段階で「コンベンション機能」と書いてしまうことには疑問がある。

(委員)

実現可否は別にしても、提案の中ではきちんと記載してもらいたい。

(委員)

〔機能3〕「大きな会議や展示」の他に、機能的にはイベントや集会、その他あらゆることをやることが考えられるので、ここも、「など」を入れ特定しないことが望ましい。

(委員)

市民が主催するイベントやマルシェ等を指す文言がこの中に入らないように、市民主催イベントを開催することもできる、というような記述があると良いのではないか。

(委員)

更には言えば、それは屋内だけでなく、屋外でやる、ということでももちろんよいだろう。

(委員)

若者流出を避けるために専門学校の提案をしたが、それはどこに当てはまるだろうか

(事務局)

今のところ上手く入れられていないので、入れる場所を提案いただきたい。新たに機能の項目を立てるか、既存の機能に追加するのか。

(委員)

この文面では〔機能4〕になるだろう。「生涯学習」とあるのを「学習」として、「学ぶことができる」という範囲を膨らませてはどうか。「会津に学びに来る人」を受入れるイメージである。

(オブザーバー)

或いは〔位置付け3〕に付け加えるか。

(委員)

旅行者を呼び込むことによる交流人口の増加についての言及で終わるのではなく、地元の若い人の学びの場や活動の場を設ける、といったところだろう。

(委員)

周囲の若い人からは、会津には学ぶ場所がなくチャンスも無い、だから外に出ざるを得ない、という声を聞く。自身の視点では、若い世代の人口を減らしたくない、という思いを文章の中に取り入れたい。

(事務局)

〔位置付け3〕に、若い人の流出を防ぐ、増やす、という点についてのコメントがあるべきということか。

(事務局)

人口問題等の指摘に関しては、雇用の確保、安定収入、子育て環境の整備等、市全体の政策にかかわってくる話である。そのひとつの拠点となる施設がここだ、ということ、より前段で載せることとし、〔大きな位置付け〕の部分をもっと長くすることも考えられるが、どう思われるか。それを踏まえた上で委員の提案があるのだ、という流れを作る。

(委員)

会津の観光客は300万人と聞く中で、主たる観光名所である鶴ヶ城が、60万人というのは少なくないか？

(事務局)

「観光入込客数」とは観光施設等（数字の報告がある場所に限り、官・民は問わない）がカウントした入場者数の積み上げカウントであるため、1 名が 3 か所を回ったら「3」と数えられる。逆に、食事を楽しむだけで、集計対象の施設を訪れない来訪者等はカウントされない。よって、実際に 300 万人が来訪しているという意味ではなく、来訪者の規模がどう変遷しているかを確認する KPI（指標値）として使用している。

（委員）

観光客入込数は、日光市であれば、多くの入込がある日光東照宮への入場者を観光客数として捉えても良いような地域もあり、地域によって捉え方に違いがある。

（委員）

まちづくりの大きな位置づけから、機能として、映画館、美術館、武道場等個別の施設を並べて具体的な案があったが、前段で、中途半端なものを作られては困る、ということに記載してほしい。半端なものでは魅力も長続きもしない。

（委員）

同感である。[大きな機能] の文面の中に入れると良いのではないかと感じていた。

（委員）

長く使えて、誇れるものを、というような思いを載せる。

（委員）

機能 1～5 の中に、「広場」という表現がない点は気になる。[大きな機能] の中に書いているので、これが落ちることはないが、なんとなくハコモノというイメージが強くなりほしくないか。

広場については、それぞれが自由な使い方利用できる自由な場所であるなどの意見も出している。

（委員）

「広場」をどう捉えるかが悩ましい。単独の「広場」という施設を指すのか、或いは、建物や駐車場も含めて、敷地全体を「広場」という認識にするのか。

（事務局）

「広場」については屋外のイメージが強かったが、今のご意見では、区域内の施設を含めて「広場」として捉えるということか。

（委員）

跡地全体が「広場」という捉え方が可能と思える。

（委員）

[機能] の中にも「広場」の表現を入れておくことが望ましい。中と外とは常に連続していて、委員もそのようなイメージをもって提案をした。

（委員）

「なんでも入る魔法の箱」と書いた後に、「すべての機能は“ハコ”の視点で考えるのではなく“コト”の視点で考える」と記述してしまうと、上に「箱」と書いてしまってよいのかという印象がある。

（委員）

確かに、「ハコ」という文言を使うと便利施設のイメージが強くなるように思われる。「広場」の方を先に持ってくる

というのはどうか。

(委員)

広場であれば入るのではなく「なんでも生まれる」とした方がいい。

(オブザーバー)

「ハコ」にはあまり良いイメージがないので、置き換えられるならその方がよい気がする。

(事務局)

確かに、広大な空間があって、そこに素晴らしいものを置きたい、という流れなので、「広場」が先に来る方が良
いだろう。

(委員)

むしろ、箱という表現を除いて、広場の中に含めてしまってもよいのではないか。

(委員)

この事業自体が会津の夢であり、希望であること、それが伝わるようにしていただきたい。

(委員)

何か目的があって、ということではないが、足が向かってしまう、というイメージこそ、我々が最初に考えていたもの
である。そのニュアンスが伝わるのが理想である。

(オブザーバー)

目的ある人や、癒されに行く人、交流を求める人、いろいろな人が集うことで、「魔法の広場」となる。

(事務局)

今のご意見を踏まえると、[機能]の側面というより、[1まちづくりを進める上での位置付け]の方で入れた
方がいいということではよろしいか。

(委員)

[大きな位置付け]に続く2行の部分をもっと膨らませるということではよろしいのかと。

我々が考えている「にぎわい」というのがどういうことか、きちんとここで謳ってほしい。

それがすることにより、[位置付け1]の「誰もが自由に～」に上手くつながってゆくだろう。

(委員)

前回「アクティブシニア」というターゲットも挙がっていた。なんとなく[機能]を見ると子どもが対象になっているよ
うに受け取られなくもない。[機能4]の「学習」のところにを入れるのが適当なように思われる。

(委員)

[機能4]には美術や文化の他にも、会津らしさを学ぶ、会津の歴史に触れる、というような表現もあると良
い。おそらく武道等を通じて学ぶ、ということになると思うが、郷土愛との思いを考慮すると、何かこの文章の中に
書き加えた方がよろしいのではないか。

③P.5 3財源と事業手法

(委員)

表現のレベルとしては「民間を活用して」、とかになるのだろうか。ここでは具体的な手法を限定して述べる必要

まではないだろう。記述のレベル感についてはどうか。

(事務局)

対象用地は市にとって重要な場であり、市民においても同様であることは、委員にも共有いただいている通りである。公共事業で整備するのか、それとも人口減少や将来負担というものも考えて、一定の制限を設けるべきなのか、そうであればどの程度民間の協力を得ていくのか、ということを考えねばならない。それにあたって、まずは、皆様の「思い」の根幹の部分で、意見およびキーワードを出していただきたい。

事業手法については市民提案の中にも PPP 等がある一方、大きな財政出動に対してネガティブな意見もある。市としては、土地を取得し、会津のためになるように活用することで方向性は固まっているが、それを「どのように」進めていくかについて、皆様の意見を伺いたい。

(委員)

基本的に土地は公共で取得すればよいと思う。その後の施設設置と運営については、現在の利活用の内容では、市で対応できるものではないと考えている。また同時に他施設の老朽化と統廃合にも対応していかなければならない中では、大きな財政出動が難しいことは承知している。故に、民間活力の導入という手段を取り入れることになるのだが、それを適切にコントロールしていくことは市の役割である。専門家等の協力を得ながら、よりリスクを低減できるようにして進めていくことが必要になるだろう。

(委員)

先ほども、作るなら「本物」を、「質の高いもの」を、という意見があったが、その道のプロの意見を取り入れ、整備や運営等にも反映させていけば、他にはないものになると考えている。

(委員)

民間活力の導入にあたっては、プロポーザルとするか、あるいはその他の手段をとるか、色々あると思われるが、具体的な手法自体については市が次のステップで検討していただければと思う。

(委員)

土地は市が取得し、施設は民間が建て、固定資産税相当額を市が補助する等のやり方があるだろう。手法については、よく調査して、且つ、市が一定程度のマネジメントを発揮して、決めてほしい。

(委員)

関東のある自治体では、防災公園として国の助成のもと運動施設が設置され、備蓄倉庫や宿泊機能を備えているという。このように、必ずしも民間だけの力に拘らなくて良いのでは。ただ、運営に際しては、どこまで民間に任せるのか、行政と民で新たに組織を作るのか、様々である。

(事務局)

皆様のご意見としては、「行政が適切なマネジメントを取りながら、民間と共にやっていく」、という方向となるか。

(委員)

適切に民間と連携しつつ、市にはマネジメントをきちんとやっていただきたい、その旨、ご記載いただきたい。

(委員)

公共施設も入ることが想定されるので、当然、市はある程度立ち入り、マネジメントを取る、そのような関わり方をするべきだろう。

④P.5 4 今後の進め方

(委員)

どのぐらい時間をかけながらやるのか、という点、どのように思われるか。

(委員)

ロードマップが必要なのか。要は、庁舎等、他の施設との兼ね合いと、土地を取得する財源問題によるところとなるのだろう。そういったことを記載すべきではないか。

(事務局)

併せて相談させていただきたいが、民間は採算が合わなければ入らない、入っても続かない。重要な土地について長く放置することは望ましくないが、とはいえ熟度を高めないと結局は破たんリスクが高いまま着手することになる。そこで、イメージで構わないので、どういう熟度になったらやるべきだ、という点について、ご意見をいただければと思う。

(委員)

主体となるものがはっきり決まらないと進まないだろう。主体が長く続くものとして固まれば、他はそれに付帯するもので構成されていこう。まずは主体となるものをどこに置くか、という点を固める必要がある。

(事務局)

いったん民間に投げかけてみて、その時に、何をメイン機能とするか、どのような機能を付けることが可能か、などの意見をいただく、また、こちらでは決めきれない部分を、民間へ意向調査を行うというイメージになるか。

(委員)

意向調査やフィージビリティ調査をやるべきである。民間側から意見を募り、提案してもらおう。彼らが可能とすると、行政側の考えや要望と乖離が生まれた時は、また調整していくことになる。

(委員)

ベストは皆の挙げた機能ができるだけ織り込まれることだが。

(事務局)

この意見書を見せて、実現性についての意見をもらうことなども検討したい。

(委員)

民間に提案を求めるにあたっては、あまり条件を固めてしまうことはせず、ある程度の柔軟性を持たせて計画してもらおうとよいだろう。

(事務局)

ご意見を踏まえると、項目の3と4は合わせた方が良くないと受け止めた。

(委員)

ずっと更地はよくないという視点もあったが、利活用手法の検討期間中に、市民からマルシェなどをやりたい等の希望があった時に解放するというのは可能なのか？

(事務局)

現時点で無理ということはないと考える。

(委員)

少し市民が関わりを持てるようにしておくこと、使ってみたいという気持ちがある人に開放してみるというのも良いと思うが、如何か。

(委員)

施設設置までの間、少し解放する、駐車場利用なども検討する、というようなことも書いてみたらよい。

(オブザーバー)

おそらくやっている中で意見が出るのではないか。

(委員)

記載する場所は5付帯意見、になるのかどうか、いずれにせよ、更地にしておくのではなく、今後の方向性について市民とともに考えていくなどと、書き加えてもらうということ。

また、項目の3と4を合わせた形となる。

⑤P.5 5付帯意見

(委員)

今まで議論してきた中で、取り込めなかったもの、あてはまらなかったけれども入れておきたい、というものがあれば、ご意見いただきたい。「景観計画」との兼ね合いの話はここに入るだろうか。

(委員同意)

(委員)

市役所の再編という計画もあるので、周辺環境の変化を踏まえて、というように、「この場所」だけを見るのではない、という点については、ここで触れておくべきと思う。

(委員)

新しい総合庁舎を整備した後、旧分庁舎の活用を検討した時に、機能が重複してもいけない。

(委員)

その点も総合的に判断した上で進めてほしい、ということになるか。

(委員)

例えば、子どもの為の施設等は、別の場所に確保できるならば、そちらに任せてみる、とかが出てくることも考えられる。

(委員)

なるほど、そして、対象用地では「魔法の広場」としての機能の整備に注力するか。

(事務局)

資料1の検討の中で、緑の回廊や会津大学との連携等、周りとの連携に関するご意見など、外とのつながり、に関するご意見が挙げられていたが、それについて付帯意見に記述する必要はあるか。

(委員)

対象用地を単体で考えることはしてほしくないので、埋没させてしまうよりは入れた方がよい。ここはやはり会津若松市にとって非常に大切な土地である。

(委員)

飛び地部分についても何か触れるべきなのか。

(事務局)

第1回懇談会で本懇談会の検討の対象外という合意を得たが、そのことはどこかに記載したいと思う。

(委員)

資料 4 として各委員提案の掲載について、載せる場合はその載せ方についても相談したい。

(事務局)

P.12 は第 3 回議事録の一部で、委員の提案をまとめた部分である。これをもっと要約して、全員の分を載せておくということにするか。

(委員)

この意見書の最後に議事録を載せるということで問題ないのではないか。

(委員)

委員・オブザーバーそれぞれの提案の要旨を含めて、出された意見の概要を示す内容を掲載すれば良いでしょう。

以上